

全般季節予報支援資料 1か月予報 2014年2月7日

予報期間：2月8日～3月7日 気象庁地球環境・海洋部

全般季節予報

(1) 特に注意を要する事項

沖縄・奄美では、期間の前半は、気温がかなり低くなる見込みです。

(2) 出現の可能性が最も大きい天候

北日本日本海側では、平年に比べ曇りや雪の日が少ないでしょう。東日本日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多い見込みです。西日本日本海側では、平年に比べ曇りや雪または雨の日が多いでしょう。北・東・西日本太平洋側では、平年に比べ晴れの日が少ない見込みです。沖縄・奄美では平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

(3) 確率

1か月	気温(%)	1か月	降水量(%)	日照時間(%)	降雪量(%)
	低並高		少並多	少並多	少並多
北日本	20:40:40	北日本日本海側 北日本太平洋側	40:40:20 20:30:50	20:40:40 40:40:20	40:40:20
東日本	40:30:30	東日本日本海側 東日本太平洋側	30:40:30 20:30:50	30:40:30 40:40:20	30:40:30
西日本	40:40:20	西日本日本海側 西日本太平洋側	20:40:40 20:40:40	40:40:20 40:40:20	20:40:40
沖縄・奄美	50:30:20	沖縄・奄美	20:40:40	40:40:20	

気温	1週目(%)	2週目(%)	3～4週目(%)
	低並高	低並高	低並高
北日本	20:50:30	20:40:40	20:40:40
東日本	50:30:20	30:40:30	30:40:30
西日本	50:40:10	40:40:20	30:40:30
沖縄・奄美	60:30:10	60:30:10	30:40:30

予報資料の解釈

● 1か月 (2/8~3/7)

- 500hPa 高度は、日本の北東海上を中心に正偏差、日本の南から西では負偏差が予想されている。850hPa 気温は、オホーツク海付近を中心に明瞭な正偏差、華中から華南付近では明瞭な負偏差が見られ、東日本付近は正・負の境目となっている。典型的な冬型の気圧配置は見られず、北日本を中心に冬型の気圧配置は弱い予想となっている。

● 1週目 (2/8~2/14)

- 500hPa 高度は、カムチャツカ半島付近でブロッキング高気圧が発達し、日本の北東で正偏差。一方、西日本から沖縄・奄美付近で気圧の谷が深まり負偏差となっている。
- 海面気圧は、シベリア付近で高気圧が強まり、華南付近にかけて強まりが見られる。一方、日本の南海上では、明瞭な負偏差が見られる。したがって、典型的な冬型の気圧配置の形は見られない。全国的に気圧の谷の影響を受けやすい。
- 下層気温は、西日本から沖縄・奄美にかけては負偏差。北日本と東日本では正偏差が予想されている。

▶ 想定される天候

- 北・東日本日本海側では、気圧の谷の影響で、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多い。
- 西日本日本海側では、気圧の谷や寒気の影響で、平年に比べ曇りや雪または雨の日が多い。
- 北・東・西日本太平洋側では、気圧の谷の影響で、平年に比べ晴れの日が少ない。
- 沖縄・奄美では、気圧の谷や湿った気流の影響で、平年に比べ曇りや雨の日が多い。

● 2週目 (2/15~2/21)

- 500hPa 高度は、引き続きカムチャツカ半島付近にブロッキング高気圧が見られ、日本の北東で正偏差。一方、ユーラシア大陸東岸から沖縄・奄美付近にかけては負偏差が予想されている。
- 亜熱帯ジェット付近の波列は、1週目に比べるとコントラストは弱まるが、日本付近の正・負の偏差の位置の変化は小さく、中国大陸付近で高気圧性循環偏差、日本の南で低気圧性循環偏差が予想されている。また、日本の南海上の低気圧性循環偏差には、順圧的な構造も見られ、下層でも低気圧性循環偏差が予想されている。なお、亜熱帯ジェット付近の波列は、西からの伝播の影響が大きく、熱帯域の対流活動の関係は不明瞭である。また、MJO の振幅も小さい予想となっている。
- 海面気圧は、1週目に比べるとコントラストは弱まるものの、シベリア付近や華中から華南にかけての高気圧は強い予想となっている。一方、日本の南海上では、負偏差が見られ、西日本から沖縄・奄美を中心に北からの寒気の影響を受けやすくなる。1週目に引き続き、典型的な冬型の気圧配置の形は見られず、全国的に気圧の谷の影響を受けやすくなると考えられる。
- 気温分布は1週目に比べるとコントラストは弱まるが、大きな変化はない。

▶ 想定される天候

- 北・東日本日本海側では、気圧の谷の影響で、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多い。
- 西日本日本海側では、気圧の谷や寒気の影響で、平年に比べ曇りや雪または雨の日が多い。
- 北・東・西日本太平洋側では、気圧の谷の影響で、平年に比べ晴れの日が少ない。
- 沖縄・奄美では、気圧の谷や湿った気流の影響で、平年に比べ曇りや雨の日が多い。

● 3~4週目 (2/22~3/7)

- 500hPa 高度は、カムチャツカ半島付近のブロッキングは解消され、北日本を中心に東西に正偏差が広がっている。また、高偏差確率では、北日本を中心に正の高偏差確率が予想されている。
- 熱帯の対流活動と、日本付近の循環場の関係は不明瞭である。
- 海面気圧は、アリューシャン低気圧が弱く、北日本では冬型の気圧配置が弱いと予想されてい

る。

- ・ 高偏差確率を考慮して北日本では冬型が弱いことを考慮するが、そのほかは冬型の気圧配置による影響はほぼ平年並で、ほぼ平年と同様の天候を見込む。

➤ **想定される天候**

- ・ 北日本では冬型の気圧配置が弱く、北日本日本海側は、平年に比べ曇りや雪または雨の日が少ない。また、北日本太平洋側では、平年に比べ晴れの日が少ない。
- ・ 東・西日本では、冬型の気圧配置の影響で、東・西日本日本海側では、平年と同様に曇りや雨または雪の日が多い。東・西日本太平洋側では平年と同様に晴れの日が多い。
- ・ 沖縄・奄美では、寒気や気圧の谷の影響により、平年と同様に曇りや雨の日が多い。

気象庁ホームページ

○季節予報

http://www.jma.go.jp/jp/longfcst/001_00.html

○「向こう1か月の天候の見通し（1か月予報の解説）」

<http://www.jma.go.jp/jp/longfcst/pdf/pdf1/001.pdf>

も参照してください。

この資料は、気象事業者等が気象庁の提供する季節予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。